

feature vol.10

国内大会

2005年のファーストミッション

5/27-29

2005年日本ランキングサーキット大会（金沢市総合体育館）

まさに新生・日本ユニシスの“進化”が問われる2005年最初の全国大会。5/27-29、石川県金沢市、金沢市総合体育館で開催された「日本ランキングサーキット大会」は、日本ランキングを決定する3つの大会の1つで（ほか全日本社会人選手権、全日本総合選手権）、6月の「全日本実業団」を前に選手の仕上がりが具合を見る意味でも非常に重要な試合だった。日本ユニシスからは、シングルスに中西選手、石川選手、ダブルスに福井・池田ペア、坂本・仲尾ペア、そして、くまもと八代YKK APの小林選手と組んだ中村選手が出場。日本ランキング上位32人（32組）がひしめく中、優勝こそ逃したものの、シングルス3位、ダブルス準優勝、3位という結果を残し、トップチームの名にふさわしい活躍を見せた。まずは合格点の“ファースト・ミッション”だったと言えるだろう。



ダブルス3位の福井（奥）・池田組

ステップアップ・ポイント

シングルス3位も好発進といえるが、ダブルス準優勝、3位の“ツースリーフィニッシュ”が、とくに今後への期待感を高めてくれた。今年も日本ユニシスのダブルスの“層は厚い！”ということアピールできた大会だったと言えるだろう。

試合結果

男子シングルス3位（中西）

男子ダブルス準優勝（仲尾・坂本）、3位（福井・池田）

- 日本ランキングサーキット大会詳細

2006年に繋がる、10年に1度の名勝負

6/8-12

第55回全日本実業団バドミントン選手権大会（大阪市中央体育館ほか）

いよいよ大いなる夢「団体戦初優勝」に向かっの挑戦が始まる。大阪を舞台に開催された「第55回全日本実業団バドミントン大会」は、男子154チームによる複2単3の団体戦で争われ、一次リーグに続く決勝トーナメントでチーム日本一を競い合った。準々決勝までは貫禄の横綱相撲で勝ち上がった日本ユニシス。続いて迎え撃つ準決勝の相手は、宿敵トナミ運輸だ。NTT東日本を加えた実力伯仲の“3強時代”、優勝するためには、この2枚の壁を打ち破らなければならない。運命の準決勝、それは、大会史上最も過酷で壮絶な死闘だったと言ってよいだろう。両者一歩も譲らぬシーソーゲーム。フルセットの試合が続き、中西選手の勝利によってトナミ運輸を3-2で征したとき瞬間、試合時間はすでに6時間を超えていた。だが、すべての力を使い果たしたユニシス・チームは、翌日の決勝で心苦しいほどの完敗を喫した。体力・気力の消耗、ケガ、モチベーション...様々な要因があるだろうが、克服しなければならない課題は選手一人一人が体で感じとったに違いない。



健闘したユニシスチーム



HOME

ソリューション

事例紹介

サステナビリティ

株主・投資家情報

企業情報

採用情報

お問い合わせ

ステップアップ・ポイント

2006年に繋がる、10年に1度の名勝負！何はさておき準決勝のトナミ運輸戦に尽きるだろう。徳儀（とくだら）に追い込まれながらも、渾身の力を振り絞って勝利をもぎとったあの“粘り”！まさにこの試合は、進化した日本ユニシス・チームを象徴する激闘であったと言えるだろう。

試合結果

男子団体戦準優勝

- 第55回全日本実業団バドミントン選手権大会詳細

ニューフェイス、未来に向かって本格始動

10/30-11/4

第48回全日本社会人バドミントン選手権大会（東京都武蔵野総合体育館ほか）

秋深まる紅葉の季節。日本ユニシス・チームにも“実りの秋”がやってきた。東京体育館、および武蔵野総合体育館で行われた「第48回全日本社会人バドミントン選手権大会」では、今年の春、ニューフェイスとして紹介した早坂選手、廣部選手が2006年に繋がる活躍を見せた。1回戦から勝ち上がった早坂選手は、ベスト8決めで前年優勝の佐藤翔治選手と対戦。ファイナルの末惜しくも逆転負けしたが、その健闘ぶりは未来のエースを予感させるに十分だった。一方、廣部選手は、早坂選手と組んだダブルスで強靱な粘りを見せベスト16進出。また、大熊倫子選手（ヨネックス）と組んだ混合ダブルスではベスト8入りを果たし、その存在感を大いにアピールした。そのほか、主な試合結果として、シングルスの中西選手が惜しくも準優勝、仲尾・坂本ペアが3位に入り、強豪チームの面目は保ったが、やはり「あと一歩」が課題として残る大会であった。



早坂（奥）・廣部組

ステップアップ・ポイント

一撃必殺クロスカットの早坂選手、鉄壁＆粘着レシーブの廣部選手、持ち味の違う二人が、今年1年、切磋琢磨しながら技術を磨き上げた成果がようやくで始めた。彼らの台頭が、現在の主軸選手を大いに刺激し、ひいてはチーム全体の力の底上げになれば、2006年はおのずと輝かしい結果が得られるだろう。

試合結果

男子シングルス準優勝（中西）、ベスト8（石川）、ベスト16（早坂）
男子ダブルス3位（仲尾・坂本）、ベスト16（早坂・廣部）、ベスト16（中村・小林《くまもと八代YKK APクラブ》）
混合ダブルスベスト8（廣部・大熊《ヨネックス》）

- 第48回全日本社会人バドミントン選手権大会詳細

全日本チャンピオン誕生、仲尾・坂本ペア

11/30-12/4

第59回全日本総合バドミントン選手権大会（宝塚市立総合体育館）

競技者ならば誰もが憧れる日本の頂点の座。これまで厚い壁に阻まれてきたその最高峰に、仲尾・坂本ペアがとうとうのぼりつめた。準決勝で福井・池田ペアとの同胞対決をファイナルゲームの末に制し、決勝で迎えたのは3連覇中の舩田・大東ペア。1年前の決勝戦で9点、3点で簡単に退けられたライバルに対し、臆することなく立ち向かって2-0で勝利、歓喜の時を迎えた。16年目を迎えている日本ユニシス実業団バドミントン部の歴史の中で、全日本王者に輝いたのは今回が初めて。終始攻めの姿勢を保ってのストレート勝ち、この1年での大きな成長を印象付けた。今年1月、仲尾選手の手術により別々の道を歩むことを強いられた二人が、また同じ道を歩み始めた途端に手にしたこの栄冠。会場となった宝塚市は、二人にとって忘れられない場所になったことだろう。



仲尾（左）・坂本組

ステップアップ・ポイント

優勝の仲尾・坂本ペアはもちろんのこと、3位入賞の中西選手、福井・池田ペアの活躍により、日本一厚い選手層を強烈にアピール。また、組んで1年にも満たない早坂・廣部ペアのベスト8進出も見逃せない。日本リーグの合間という難しい時期に収めたこの好成績は、監督・コーチ・トレーナーといったスタッフの努力に裏打ちされたものでもある。チーム力の充実が広く示される大会となった。

試合結果

男子シングルス3位（中西）、ベスト16（石川）
男子ダブルス優勝（仲尾・坂本）、3位（福井・池田）、5位（早坂・廣部）
混合ダブルス5位（廣部・大熊《ヨネックス》）

- 第59回全日本総合バドミントン選手権大会詳細



HOME

ソリューション

事例紹介

サステナビリティ

株主・投資家情報

企業情報

採用情報

お問い合わせ

11/12-12/25

バドミントン日本リーグ2005（大阪府守口市民体育館ほか）

これまでどうしても掴み取ることができなかった「団体戦初優勝」。全日本実業団選手権で5回、日本リーグで4回の準優勝と、常に優勝候補に挙げられながらもシルバー・コレクターに甘んじてきた日本ユニシスチームだが、“10度目の正直”でとうとう悲願を達成。創部16年目、厳冬となった2005年冬に大輪の花を咲かせた。

第3戦では、実業団選手権優勝のNTT東日本と対戦し、第2複ファイナルゲームまでもつれる大激戦をものにして、大きな山を越える。

さらにはNTT北海道、JR北海道の道産子パワーに苦しめられながらもこれを撃破。唯一の全勝チームとして最終節大阪大会へ乗り込む。

迎える相手は4連覇中の宿敵・トナミ運輸。チーム丸となったのぶつかり合いは、まさに優勝を決めるにふさわしい戦となった。仲尾・坂本ペアが大激戦の第1複をものにして、迎えた単は中西選手対大東選手。ひたむきに勝利を目指し、激闘を続ける両チームだが、最後に勝利の女神が微笑んだのは日本ユニシス。大東選手のハイバックカットがネットにかかった瞬間、新たな歴史の幕が開かれた。

V1を飾り、この1年を最高の形で締めくくった日本ユニシスチーム。次なる目標に向け、さらなる高みに昇りつめてほしい。

ステップアップ・ポイント

全日本王者仲尾・坂本組を筆頭に、各選手の確かな成長により果たされたリーグ初優勝。それを支えたのが、試合には出られなかった選手、そして観客席からの応援が織り成す一体感だった。本当の意味で充実してきたチーム力を背景に、2006年も必ずや栄冠を勝ち取ってくれるだろう。

試合結果

男子団体戦優勝

- ・ [バドミントン日本リーグ2005詳細](#) >

(2005年12月26日掲載)

feature backnumber

< [feature vol.10](#) | [feature vol.10 国際大会](#) >

[チームについて](#) [選手・スタッフ紹介](#) [試合結果](#) [ニュース](#) [ルール解説](#) [LINK](#) [お問い合わせ](#)

企業情報

BIPROGYについて

[トップメッセージ](#)[会社概要](#)[Vision2030・経営方針（2021～2023）](#)[コーポレートブランド](#)[グループ会社](#)[拠点所在地](#)[組織図](#)[役員一覧](#)[企業理念](#)[企業行動憲章](#)[調達・購買に関する指針等について](#)[BIPROGYグループの歴史](#)[ニュースリリース](#)[株主・投資家情報](#)[採用情報](#)

BIPROGYの企業活動

[サステナビリティ](#)[広告宣伝活動](#)[セミナー/イベント](#)[出版物](#)[デジタルメディア BIPROGY TERASU](#)[実業団バドミントン部](#)[BIPROGYグループアンバサダー](#)[東京ディズニーランド「エレクトリカルパレード・ドリームライツ」](#)[東京ディズニーシー「フォートレス・エクスプロレーション」](#)

BIPROGYの研究活動

[BIPROGY総合技術研究所](#)[Technology Foresight](#)[技術論文BIPROGY技報](#)[BIPROGY研究会](#)

[ご利用にあたって](#) > [個人情報保護について](#) > [情報セキュリティ基本方針](#) > [ソーシャルメディアポリシー](#) > [サイトマップ](#) >

Copyright © 2023 BIPROGY Inc. All rights reserved.



初の団体戦日本一